

12月3日社会学理論 講義ノート

国際関係論3年 山田くん

### 【歴史は変わる】

米軍 "Don't tell, don't ask"というポリシーは違憲（合衆国憲法修正一条表現の自由に違反）との判決を受けた政権の対応が決定

ゲーツ国防長官「7割の兵士がポリシーを廃止しても影響がないと回答」

=>オバマ米大統領は法律の廃止案を議会に提出予定

"All the American servicemen and women who are willing to risk their lives for their country, must be treated fairly and equally"

これは歴史において大きな一歩であると言える。

### 【「社会」という場の性質】

社会はお互いに影響を及ぼし合っている関係の繋がりである。社会内における相互行為は観察可能だが、相互行為が起きている場所の持っている性質は直接観察することは不可能である。しかし観察可能な相互作用から、そのような場に「働いている力」を取り出すことができる。このとき社会学は、単なる観察から学問へと脱却する。その方法が「社会学理論」である。

デュルケームは数多くの自殺の数・率のデータを調べ（観察し）、「どういうときに自殺が増えるのか」等の「社会」という場の性質（法則）を抽出した。デュルケームはこのようにして「ここに法則あり。ゆえに社会あり。ゆえに社会学あり」という命題を証明した。

デュルケームの自殺論のテーゼは100年以上の間覆されることはなかった。しかしその後デュルケームの理論は危うい、という主張が生じた。これは革命的。

デュルケームへの批判…「デュルケームは（デュルケームが考えていたような意味では）社会を客観的に見ていたわけではなかった」

### 【変化はどこから来るか？】

「変化はどこから来るのか」という問いは、変化が内生的なのか外生的なのかという問いに置換できる。葛藤理論は「変化は内生的」と捉える。社会においては、その矛盾の上に変化が起きるのである。一方機能主義論争においては、「変化は外生的」という結論に至った。機能主義においては、単機能要件モデルと複機能要件モデルという二つのモデルが存在していた。単機能要件モデルは「望ましき」という物差しを一つ、複機能要件モデルは物差しを複数持っている（下記の例を参照）。機能主義論争において、単機能要件モデルは

意味を持たないという主張が大勢を占めた。しかしながら、複機能要件モデルは定立不可能である、ということが言われるようになってきた。システムは自己同一性を保つものであるため、その自己同一性が維持されないとき、システムの定義が成り立たなくなる。コンドルセのパラドクスと同様に複機能要件モデルを想定すると決定がなされなくなり、システムは自己同一性を保てない<sup>1</sup>。そこで複機能要件モデルを「外部条件によって決定ができる場合と、そうでない場合がある」と修正を図る。この場合、「変化は外生的」ということになる。

#### ※システムの定義

システムは境界維持的(=抗変化性、同一性)である。大学は雨が降っても授業を行う(時間割という境界は崩されない)。パーソナリティも簡単には他のパーソナリティに浸透されない。相互の牽制、日記による内省等のシステムがパーソナリティの境界を維持する。

#### cf. 複機能要件モデルの例

人の持つ三つの機能要件

1. お金

2. 楽しみ

3. 勉強、将来のこと (←社会の規範を内面化)

どれかをとると、他のものがなかなかとれない(遊びたいけどお金ない、バイトしたいけど勉強しなきゃいけない…。)。この三つで学生の中の悩みは大体説明できる。

#### .タルコット・パーソンズの4機能要件説

(社会システムは以下の「望ましい」要件を充足していなくてはならない)

	システムの中の関係	システムの外との関係
手段的 (インストルメンタル)	Latent-pattern maintenance (個々人による価値の内面化)	Adaptation (環境への適応)
目的的 (コンソマトリー)	Integration (システムの統合)	Goal-attainment (目標の達成)

#### cf. コンドルセのパラドクス (社会的選択 Social Choice の理論)

3人が3つの選考対象に対し、それぞれ独立の選好を持っているとする。

A : 和 > 洋 > 中

<sup>1</sup> 実際にシステムが決定できない実態があることと、概念として構造的に決定できないことは違う。後者であればそれは社会システムという概念の瑕疵として問題、ということ。

B : 洋>中>和

C : 中>和>洋

「和と洋どっち？」→「和」

「洋と中どっち？」→「洋」

「和と中どっち？」→「中」

推移律を適用すると、「和>洋」かつ「洋>中>和」となり、矛盾。

### 【権力と独裁】

社会のコアが権力を持つと仮定したとき、権力の主体は誰なのか？

一つの回答→パワーエリート

e.g. 米国のケネディ政権

フォード社長マクナマラを国務長官に抜擢するなど、ジョン・ケネディは **Best and Brightest** をホワイトハウスに集めた (**Power Elite**<sup>2</sup>)。これが典型的な例>

←しかしそのようなエリート政権が、最悪のベトナム戦争にはまり込んでいくという悲劇をハーバースタムは『ベスト&ブライテスト』で詳しく述べた。

一部の特権集団=パワーエリートという説は「権力は他者に影響力を行使すること」というマックス・ウェーバー的発想に基づいている。しかしこのモデルだと、違う形の権力を見逃してしまう (e.g. マジョリティの持つ「ふつう」の名による権力)。

「独裁」というものをどのように考えるか？

ダール (**Robert A. Dahl**) のポリアーキー論…誰かが決めるのではなく、決める権利は分権される (権力は多元的)

ダールにとって独裁でない形とは何だったのか？

アロー (**Kenneth Arrow**) の一般不可能性定理…個人の決定を集計する際のパラドクス

4つの合理的な社会的要件 (including 非独裁)

非独裁の定義=任意の選択プロファイルにおいて、もし  $x >_i y$  ならば  $x > y$  となるような個人  $i$  が存在しない。

権力が「社会」という場の性質によって生じるものとしたら、権力者が権力を行使しているとは言えない。このように独裁に頼らない権力モデルも存在するのではないだろうか。

---

<sup>2</sup> ローズ奨学金 (**Rhodes Scholarship**) のネットワークにより形成